

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 6年 7月13日
(134号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸



「古事記が教えてくれる天命追求型の生き方」
白駒 妃登美 先生
(六月度特別講義より)

■人間の幸せを決めるもの

二〇一〇年に大きな病気を経験し、そこから私の人生は一八〇度変わりました。幼い頃は日本に誇りを持って、いつか日本を誇れる外国の方から日本の素晴らしさを聴かされたことや、境野勝悟先生との出会いから学ばせていただいたこともあり、あるきっかけで出版のお申し出をいただきました。そこで当時私は助かる見込みのない病を抱えてはいたが、病床で来る日も来る日も先人たちの人生と向き合い、日本の歴史を紐解いていきました。そうする中で、素晴らしい発見が次々とありました。

十代から四十代半ばまで私はアメリカ型の成功法則にはまっていた。それらの成功法則では十年後の自分をイメージ、五年後三年後と逆算して目標達成していきま

■日本人は天命追求型

それぞれ国、民族には先人たちの培ってきた歴史や文化があるのと同じように生き方もあると思います。日本人というのは、過去も未来も手放して、今ここに全力投球してきた、自分の環境を受け入れ感謝して、ご縁をいただいた人たちを笑顔にするために頑張る中で、次のステージへと運ばれて、また新たな現実を得、またそれを受け入れて感謝して、と更なるステージへと運ばれる。そのようにして日本人は天命によって運ばれるという生き方をしてきたのだと思うのです。日本人には日本人の生き方があり、他の民族の生き方を真似したところで幸せにはなれない。というのは、私は若い頃より決めた目標は絶対達成しないと気の済まない性格で、いつも充実感があった。そしてそれを幸せ感と勘違いしていました。今思えばそうしたアメリカ型の成功哲学は目標を達成すれば次の目標へ、と常に勝ち組でい続けなければならぬ。確かに自分でも頑張っていました。その方向性は自分のためでした。それが、その方向性を他

■日本一の球拾い

(人間学塾塾生で亡くなられた) 本田実先生とはご縁があり、先生が指導されてい

た星稜高校野球部を私も心から応援していました。現在大学生の私の息子も中学から野球を始め、甲子園を目指して福岡の強豪校に入り、いまは、どこがまわりは特待生ばかりです。いつまでたっても一般入試で入った息子にはまったくチャンスはなく、本人は不貞腐れてしまった。私は心を鬼にして、社会に出たら理不尽なことだらけなのだから一足早く体験できてよかった、と息子に伝えたものの、本田先生に相談したのです。星稜高校を名門に育てたのは本田先生と山下監督です。その山下監督の息子さんが当時野球部長をされており、息子と会ってこんな話をしてくれました。

「その子は高校までは名の知れた選手だった。大学でも野球をやりたいと強豪の駒沢大に入り、初日で愕然とした。自分が一番下手だったから。そして彼はその練習初日に『日本一の球拾いになる』と決意したんだ。彼は四年間バッターボックスに立てなかったけど、一度も練習を欠かさなかった。文字通り日本一の球拾いになって、野球をやっているが教員になり、野球の指導を始めました。その子は四年間も下積みをしたからその経験を活かし、素晴らしいチームを作り上げて、そのチームはいつしか甲子園の名門と呼ばれるようになった。その子がうちの親父なんだよ。君は今チームのために一生懸命頑張っていて、その頑張りかもしれない。もしも君の頑張りや人生の中では必ず花開くものだから、自分がチームのためにできることを精一杯やりなさい」。

その日から息子の野球に対する取り組みも学校生活も大きく変わりました。彼は自分の人生のテーマは誰かを支えることだと気づいたそうです。大切なことを本田先生のご縁で星稜高校野球部に教えていただきました。

(抄録 中川千都子)



総合司会 町田豊彦塾生
いつも撮影協力ありがとうございます！



白駒妃登美先生は懇親会にもご参加頂きました！
濱田久美様、フルート演奏ありがとうございました。

グループ討議

白駒 妃登美 先生

・天命追求型の生き方

◆Aグループ

- ・ちよにやちよに 愛の歌だったと知った
- ・稲のことを「瑞穂」ということ
- ・十年後はないと考える

◆Bグループ

- ・幸せとは未来に希望を持てること
- ・君が代は愛の歌が元 君とは皆のこと
- ・英雄の条件 持ちかえって次世代につなぐ

◆Cグループ

- ・受け入れることから人生を始める
- ・大切な人を笑顔にする
- ・三種の神器の意味

◆Dグループ

- ・ご縁に感謝してつながる
- ・残りの時間が命
- ・英雄の条件

◆Eグループ

- ・「君が代」は愛する人のための歌
- ・天命追求型の生き方
- ・和の心を大和心へ

◆Fグループ

- ・日本人は私とあなたと自然を区別しない
- ・未来を信じ、次世代に繋げていくこと
- ・一人ひとりが和の心を磨き「大和心」へ

第13期 入塾説明会 開催



第13期入塾説明会が開催されました。

DVD映像から、中川千都子代表の挨拶、松本学副代表より塾の概要説明が行われました。当塾の特色とともに、学びの継続性を強調されました。

その後、藤井優和塾生、岡本ユウコ塾生、磯部泰司塾生より、それぞれの体験発表がありました。

よき人として生き、よき場、人としてどう生きていくのか、本当の勉強とは、縁を育てていく思い、などなど。すばらしい感想などが多数発表されました。

当日発表された皆様、本当にありがとうございます。これからも一緒に学びましょう。

第13期 スケジュール&登壇講師

9月14日 (土)	入塾式	
10月19日 (土)	石川 真理子	先生
11月 9日 (土)	今野 華都子	先生
12月21日 (土)	上甲 晃	先生
1月11日 (土)	木南 一志	先生
2月 8日 (土)	横田 南嶺	管長
3月15日 (土)	執行 草舟	先生
4月12日 (土)	鍵山 幸一郎	先生
4月13日 (日)	先哲の地を訪う	
5月10日 (土)	白駒 妃登美	先生
6月14日 (土)	岩崎 一郎	先生
7月12日 (土)	野本 三吉	先生
8月 9日 (土)	卒塾式	



人間学塾・中之島
第13期ご案内

令和6年9月より、人間学塾・中之島はいよいよ第13期を迎えます。

講師等の詳細については、別途、パンフレットをご覧くださいますようよろしくお願い致します。

塾生の方は、継続の手続きをお願いします。
登録塾生の方は、是非、塾生に。
皆様 友人・知人をご紹介下さい。

寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝 ⑨

「私よりも公に生きて」

「人間学塾・中之島」にとって、大切な講師の一人で在られる鍵山秀三郎先生には三度ご登壇いただきました。先生のご講話は、いつも公共心・公德心を語って下さっていました。

ご自身の人生は、些細な事を積み重ねてきて良かった人生だと言われました。現代はさほど努力をしなくても物が手に入ってしまうので、些細な小さな事に感謝・感動する場面が、昔の人に比べると少なくなりました。人並みの生活が出来る事を、幸せとは感じないのです。「一切の不幸せは不足から生ずるのではない。有り余るところから生ずる」という言葉があります。豊かなままに幸せになれる方法は謙虚な心を持つことで、そのためには掃除が最良の実践だと説かれました。

また如何なる国や時代にあっても、人が生きるうえでの「目に見えない大切なもの」を教えて下さった事もありました。米国アナポリス海軍兵学校で、現在も日々の修養に使われているのは、終戦により閉校されたわが国の海軍兵学校で学ばれていた「五〇(省(せい))」と呼ばれた自戒の言葉です。敗戦後来日した米国海軍中将が、この言葉に感銘し、自国に持ち帰り翻訳させたのでした。

一、至誠に悖(もと)るなかりしか(真心に反していなかったか)

一、言行に恥ずるなかりしか(言行に不一致な点はなかったか)

一、氣力に缺(か)くるなかりしか(精神力は十分であったか)

一、努力に憾(うら)みなかりしか(十分に努力をしたか)

一、不精に亘(わた)るなかりしか(最後まで手を抜かなかったか)

自分得た成果は自分のものにせず、後世の人に伝えていく日本独特の文化があります。私より公を選ぶ日本民族の血を、今こそ取り戻さなければならぬと深く思うのです。

《人間学塾・中之島》次月日程

○日時 8月10日(土) 13時
○場所 大阪大学・中之島センター
6階 セミナー室 E・F

○卒塾式

- ・ 塾生表彰
- ・ 記念品贈呈
- ・ 卒塾スピーチ
- ・ 門出の宴

ひとり1分
感想 発表

芳信抄

第133号中之島ニュース賜り、ありがとうございます。登録塾生の継続申し込みさせていただきました。第13期も宜しくお願ひ申し上げます。

「そやな」「ほんまや」「そのとおり」寺田一清先生のお言葉も真理と存じます。ことので良い人生になると思います。

愛知県 坂部智一様

中之島ニュースご惠送誠に有難うございます。

やな、ほんまや、そのとおり」は寺田一清先生の声で聴こえて参ります。皆様

うでしようね。内観法は僕も毎日日記に書いています。お世話になったこと、し

てあげたこと、迷惑をかけたこと、それが反省点になったことお祈ります。

が登録塾生、本年も申し込みさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

愛媛県 桂誠司様

番外レポート

「執行草舟先生が常任講師に！」

6月某日、執行草舟先生に面会、歓談の中で当塾・塾生に対しお褒めの言葉をいただきました。

人間学塾では、「会場に入ったときの雰囲気ですでに違う。その良さは他所の団体とは比較にならない。皆が熱心。これはお世辞ではない」とのこと。さらには「今後日本は厳しい時代を迎えるだろうが、そのときに救いとなるのがこの塾で学ぶ人たちだよ」とのお言葉でした。その後ぜひ常任講師に就任いただきました旨を申し出たところ、二つ返事でご快諾いただきました。来期もお楽しみに！
(中川千都子)

編集後記

白駒妃登美先生。天命追求型の生き方『君が代』の「君」は愛する人をさす歌。それが国歌として歌われている国・日本。素敵です。天命追求型の生き方により、和の心が和心となっていくのです。本当に感激でした。白駒妃登美先生には、今期より常任講師にご就任していただきました。当日は、懇親会までお残り頂き、本当にありがとうございました。第12期も残りわずかです。第13期もどうぞよろしくお願い申し上げます。
編集長 西村俊幸